

安心の基本素材「耐熱ガラス」。

100%天然の鉱物を精製した、地球にやさしい素材の「耐熱ガラス」。熱に強く、酸にも強く、電子レンジで使える特性がある優れたガラスです。素材の安全性を向上させるため「ハリオの耐熱ガラス」は、製造過程で発生する泡を残さないようにするための、泡きり剤も100%「天然塩」を使用しております。ハリオは安心・安全素材であるガラス「耐熱ガラス」を生かしたモノづくりを続けてまいります。



煙突のない工場。

ハリオの耐熱ガラスは1972年以来「煙突のない工場」で生産しています。「煙突のない工場」の実現は、ガラス原料を重油でなく電気によって溶かす、独自の技術開発の成功によるものでした。当時のガラス工場といえば煙りと粉塵の害がひどいといった常識を変え、工場隣接の環境を乱すことなく、また中で働く社員に対しても配慮した職場環境を生み出しました。



日本最初の直接通電式ガラス溶融炉の開発の成功により、ハリオの工場から煙突がなくなりました。

(古河工場、ハリオ物流センター全景)

ISO9001 ISO14001
OHSAS18001 認定工場

安心素材。

耐熱ガラスは100%天然の鉱物を精製したものを原料とした、地球にやさしい素材です。ハリオの耐熱ガラスは、さらに、製品に泡が残らないようにするための「泡きり剤」も100%「天然塩」を使用し、亜ヒ酸やアンチモンといった重金属を一切使用しておりません。また、ガラスと組み合わせるプラスチック素材についても、電子レンジで加熱をしても環境ホルモンの出ない素材を使用しています。さらに、ガラスにプリントする白のインクは無鉛インクへ切り替えてまいります。安心・安全が原点です。

もったいない 「MOTTAINAI」主義は40年以上前から。

日本の美德をあらわした言葉「もったいない」。ノーベル平和賞を受賞したケニアの故ワンガリ・マータイ氏は、この言葉に感銘を受け2005年3月国連女性地位委員会で出席者全員で「もったいない」を唱え話題となりました。ハリオではこの「もったいない」の思想は40年以上前から唱えています。サイフォンやハリオール等「ガラスボールが割れた」「茶こしがよれた」場合に部品を交換して使う考え方です。「直して、生かし、長く使う」当たり前のことを、当たり前に。アフターサービスを考えた物づくりはこれからも続けてまいります。



東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設提供



ノーベル物理学賞受賞 「カミオカンデ」

2002年ノーベル物理学賞受賞の、小柴昌俊 東大名誉教授の研究装置「カミオカンデ」(素粒子観測装置)に使用された20インチ径・光電子増倍管の材料は、昭和56年に当社が作成したものです。当時、直径50cm、厚さ4mmで均一にガラスバルブを作るには手吹きしかなく、しかも至難の業でした。

当時の様子について古河工場で取材を受けた内容が、NHKの人気番組であった「プロジェクトX」で2003年5月27日(火)午後9時15分～10時『衝撃のカミオカンデ「地下1,000mの闘い」』と題して放送されました。

ガラスの和楽器 「大鼓」「小鼓」「笛」「締太鼓」

日本伝統のガラス工芸技術が生んだ、和の音の新しい形。

2010年、これまで手がけてきたバイオリンなど複数のガラス楽器の製作過程で、木材に替わる和楽器の新素材として耐熱ガラスの可能性を見出したことからガラス製の和楽器「大鼓」「小鼓」「笛」「締太鼓」の製作にチャレンジし、このたび完成に至りました。製作には総勢13名、総製作期間は1年7ヶ月、総制作費は1,000万円を要しました。製作するにあたって最も苦勞を要した楽器は大鼓、小鼓です。これらはガラス製の胴部分と、その左右に張る皮との相性によって音質が大きく異なるため、まず胴部分を合計約40個程度製作し、その中から皮との相性を確かめ、最も良質な音を出せる胴を選びました。



大鼓



小鼓



締太鼓



笛